

2007年(平成 19 年)4 月 11 日

「YMFS スポーツチャレンジ体験・研究助成」「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」 平成19 年度 助成対象者および奨学生決定のお知らせ

財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(Yamaha Motor Foundation for Sports)は、平成 19 年度「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」、「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」の助成対象者及び、平成 19 年度「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」の奨学生を決定しました。

平成 19 年度の助成対象者は、「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」が合計 15 の個人・団体、「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」が合計 16 の個人・団体、「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」の奨学生が合計 3 名(日本人留学生 1 名、外国人留学生 2 名)です。

昨年 12 月 7 日～本年 2 月 28 日の募集期間内に、「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」=74 件、「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」=101 件、「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」=16 件の応募があり、書類選考による 1 次審査と、面接による 2 次審査を経て上記の通り決定しました。

なお、4 月 24 日(火)には、「平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成金贈呈式」を開催します。



3 月 30 日に都内で開かれた 2 次審査会の様子

「YMFS スポーツチャレンジ体験・研究助成」「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」の概要

「YMFS スポーツチャレンジ体験・研究助成」は、①「世界に翔たくましい人材の育成」②「国民のチャレンジスピリットの喚起」③「各種スポーツの普及・振興」をめざした(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団の助成金交付制度です。本制度には、自己のキャリアアップやスキルアップを目的とした各種体験活動に対して助成金を交付する「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」と、スポーツにかかわる学問・研究活動に対して助成金を交付する「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」の 2 部門があり、1 件あたりの助成金は個人 100 万円、グループ・団体 200 万円を上限とし、交付期間は 1 年間です。

一方、「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」は、スポーツの普及・振興にかかわる学問・研究に取り組む国内外の留学生を対象とした奨学金給付制度で、奨学金は大学生 7 万円、大学院生 10 万円(ともに月額)とし、給付期間は 1 年または 2 年間です。

《 審査講評 》

「“挑戦することの尊さ”を社会に伝えたい」

(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 理事長 長谷川 至

昨年末にスタートしたばかりの新財団のスポーツチャレンジ助成事業に対し、この短い期間に多くの方々から応募があったことに驚くとともに、この財団に対する期待の大きさを実感しています。今回の審査では、2次審査の面接はもちろん、1次審査における書類選考の論文からも、申請者の皆さんのほとぼしる情熱が伝わってきました。こうした中から選出された人々のチャレンジがこれから始まるわけですが、高い目標に挑むアスリートや指導者、そして研究者たちのチャレンジに大いに期待しています。

知恵と情熱によって困難に挑む心＝チャレンジスピリットは、誰もが心の中に抱いている尊い精神です。しかし現代社会においては、安定した社会生活の中でリスクを避ける価値観が広がり、また“突出した個”や“異彩を放つ個”に対する抵抗感もあり、秘めたるチャレンジスピリットが個人の中で埋没し、その結果、“規格外の個”が育ちにくい環境にあるように思われます。

「YMFS スポーツチャレンジ体験・研究助成」の最終的な目的は、そうした個の挑戦を喚起・支援し、その実像を通じて挑戦することの尊さを社会にメッセージすることにあります。また、再挑戦の機会の創出、埋もれた人材の発掘という視点でも、大きな意義を持っていると自負しております。挑戦する精神が共感・称賛される社会づくり、そして社会にとって有用な人材の輩出のために、(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団はこの事業を大切に育ててまいりたいと考えています。

「申請者のすべてが“熱いチャレンジスピリット”にあふれていた」

審査委員長 浅見 俊雄（東京大学・日本体育大学 名誉教授）

短い応募期間にもかかわらず応募総数 191 通、と多くのチャレンジャーから申請をいただきました。ジャンルも多彩で目標値やハードルも非常に高く、何より申請者のすべてが「熱いチャレンジスピリット」にあふれていたことから選考審査の過程ではたいへん苦勞しました。

「スポーツチャレンジ体験助成」には、高校生や大学生を中心とした 10～20 代の若い世代から多数の申請が寄せられました。今回選考されたチャレンジャーたちの目標に向かうプロセスや成果に刺激を受けて、次世代のチャレンジャーが現れることを期待しています。また採択された「スポーツチャレンジ研究助成」の対象は、基礎的研究・実践的研究を問わず研究レベルが非常に高く、スポーツ界全体のレベル向上に向けてその成果が大いに期待できます。「国際友好スポーツ奨学金」の奨学生は 3 名、と少数ですが、成績が非常に優秀なことはもちろん、将来スポーツを核とした国際友好に活躍できる人材として選出しました。

《平成19年度YMFS助成対象者／奨学生第一期生一覧》 ※順不同

YMFS スポーツチャレンジ体験助成

氏名・団体名	競技種目/他	体験テーマ
能戸 知徳	自動車ラリー／選手	オフロードレース・クロスカントリーラリーに出場し経験を積む
小島 智子	チアリーディング／選手	日本人初5年連続NFLチアリーダー合格を目指して
東 翔	水泳／選手	北京五輪出場に向けての自己のレベルアップ
榮樂 洋光	セーリング／選手・指導者	セーリング競技における競技力とコーチング能力の向上
大槻 卓	ラグビー／審判	IRB パネルレフリーへのチャレンジ
レフェリーカレッジ	サッカー／審判	レフェリーカレッジ 2007～トップレフェリーを目指して～
チームイーストウインド	アドベンチャー／選手（チーム）	世界最高峰のアドベンチャーレースで優勝を目指す
山本 篤	陸上（障害者スポーツ）／選手	陸上競技 100 m 走幅跳 北京パラリンピックへの挑戦
須藤 正和	セーリング（障害者スポーツ）／選手	北京パラリンピックの出場権を取るために
森下主税	陸上（障害者スポーツ）／選手	陸上競技 1500m・800m 日本新記録樹立
荒 美咲	馬術／選手	馬術において3年連続での国体出場と全日本選手権に出場、入賞を目指す
岡本 達也	サッカー／選手	世界で活躍する選手になるために
中京女子大学 硬式野球部	硬式野球／選手（チーム）	めざせ“1勝”
銘苅 淳	ハンドボール／選手	自身の競技力向上とハンドボールの普及・強化について
清水 小百合	スピードスケート／選手	世界の舞台で人々に夢と感動を与えられるスケート選手になるために

YMFS スポーツチャレンジ研究助成

氏名・団体名	研究テーマ
EACL（Environment-Action Coupling Learning：環境・行為結合学習）研究プロジェクト	サッカースキル獲得のための「もぐらたたき型パストレーナー」の開発
橋本 彩	ラオス・ボートレースの民族誌
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家	チャレンジできる子どもを育てる研究～非日常の体験活動が子どもに及ぼす影響～
村木 里志	筋横断面積からみた運動・スポーツの身体的効果について
国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部 生化学研究室	遺伝子発現からみた低酸素トレーニングの効果に関する研究
宮崎 俊彦	青少年の牽引走における疾走パワーの研究
広島大学大学院 身体運動心理学研究室	心理的プレッシャーによってなぜ運動パフォーマンスが低下するか？ －認知的側面と行動的側面の影響－
金沢大学大学院 教育学研究科 運動生理学研究室	安全なレジスタンストレーニング方法の検討 －伸張性収縮は心臓血管系の応答を抑制するか？－
東京医科歯科大学 高気圧治療部	肉離れに対する早期競技復帰のための高気圧酸素療法の検討
沼尾 成晴	一過性有酸素性運動中の血中アディポネクチン濃度の動態
京都市立芸術大学	運動性疲労による味覚感受性の変化について
順天堂大学 スポーツ健康医科学研究所・運動生理学研究室	日本人における ACTN3 遺伝子型と筋線維組成の関わり ～ ACTN3 遺伝子型はタレント発掘のツールとなり得るか？
日本女子体育大学 基礎体力研究所	呼吸法の違いがレジスタンス運動時の脳血流調節に及ぼす影響
藤井 竜太郎	fMRI での脳活動計測による口腔機能と身体運動機能との関係解明
秋間 広	深層筋である大腿部の中間広筋の筋活動を記録する試み
平成国際大学 スポーツ科学研究所	姿勢制御能力のトレーナビリティに関する研究－年代ごとの差異について－

YMFS 国際友好スポーツ奨学金

氏名	国籍	留学国	留学テーマ
中村 さつき	日本	アメリカ	アメリカにおけるスポーツ選手をめぐる法律問題研究のため
黄 忠	中国	日本	生理学および力学的要因に基づいた競泳パフォーマンスとテクニックの限定要因の解明
金 勝烈	韓国	日本	長期運動が脳内機構と運動神経伝導速度に及ぼす影響（運動出力に着目して）